

ミニトマト 地元販売へ

高い糖度、味に自信

農業分野「地域の特産品に」と期待
参入4年目に

公共工事の減少、地域経済の低迷による受注減で苦境に立つ能代山本の建設業界。そうした中、三種町鶴川字大曲の成田建設（成田保代表取締役）は18年から農業分野に参入、現在6棟のビニールハウスでミニトマトの栽培を手掛ける。土作りからこだわり、有機肥料だけで育てられた「甘いトマト」はこれまで主に県外へ出荷してきたが、今月からは地元でも本格的な店頭販売がスタート。成田代表は「味には自信を持っている。地元の人にも味わってもらいたい」と話している。

三種町の成田建設

仙台市の知人からもちろ
不況下にあつて、農業で
って食べた中玉トマトの
収益増を図ろうとシタ
濃厚な甘さに、成田代表
ケの栽培を始めようとシ
は衝撃を受けた。深刻な
ていた矢先の出合い。



「トマトの方が見た目も
明るいと方針を転換し、
すべにそのトマトを栽培
している宮城県の農家に
従業員を派遣した。
18年7月、浜田市内の
メロンロード沿いに「み
の農園」を開設し、ミ



ニトマトの試験栽培を開
始。早速その年の成果を
県種苗交換会に出展した

ところで、県知事賞と交換
会会頭賞を受賞、その品
質に手応えを感じたとい
う。
栽培するミニトマトは
糖度の高さが自慢。同社
ではもみ殻に米ぬか、各
種菌体などを混ぜ合わせ
た自家製の完熟堆肥に定
植し、その後は有機肥料
のみで育てる。また受粉

には、ミツバチなどほか
のハチよりも高価なマル
ハナバチを使用。栽培に
手間を惜しまないこれら
の徹底したこだわりのよ
う。通常のミニトマト
のほぼ倍となる8〜10度
の糖度の実が成るとい
う。
「みのりちゃん」のブ
ランド名を付けたミニト
マトは、これまで秋田市
や県外のデパート、スー
パーで販売してきたが、
今月からは能代山本でも
店舗を展開するテラタ
（本社・能代市、寺田雅
彦代表取締役）での取り
扱いが決定。また昨年秋

に試験販売して好評だっ
たミニトマトのジュレ
（ゼリー）も同じく今月
から、ミニトマトに並ぶ
主力商品として本格的に
販売を開始する。
成田代表は「雇用の受
け皿にした」と始めた農
業もようやく軌道に乗っ
てきた。栽培規模や販路
を拡大しながら社員を増
やしていければと語り、
「この地域でミニトマト
の栽培に賛同してくれる
仲間が欲しい。栽培技術
は惜しみなく伝えるつも
り。いずれは地域の特産
品として育てたい」と夢
を広げている。

ミニトマトは時価、ジ
ュレは1個200円で販
売。問い合わせは同社
（☎85・2401）へ。

成田建設が栽培するミニトマト。
今月から能代山本でも店頭販売